

50周年に向けて 同窓生ネットワークの強化を

長岡技術科学大学学長 東 信 彦



本学は昨年10月に開学40周年を迎えました。昭和51年に、実践的な技術の開発を主眼とした教育研究を行う大学院に重点を置いた工学系の大学として、高等専門学校生を主たる対象とする新構想のもとに設立されました。国内外の企業等で幅広い視野からの総合的な実践的技術力を養う約5か月間の「実務訓練」を開学以来実施し、これまでにこれまで学部卒業生14,849名、大学院修了生12,481名を世に送り出し、卒業生・修了生は指導的技術者として日本国内にとどまらず、世界の第一線の様々な分野で活躍しておられます。

最近ある新聞社が行った企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査では、本学の卒業生が総合評価で1位になりました。「行動力」が1位、「独創性」、「対人力」で2位、「知力・学力」で3位と全ての側面で高い評価を得ています。一般の大学が学術研究を重視しているのに対し、本学は現場主義・実践主義を重んじています。実践の現場での学びの過程を通して「考え出す力」を育む独自の教育システムを実施して来ました。これがこのような結果につながっていると思います。このような教育システムは海外でも高く評価され、技学教育ネットワークが広がっています。

近年のインターネットの発達により、一瞬にして情報が世界を駆け巡り国境の壁がなくなるグローバル社会となりました。そして、いまICTが急速に発展し、産業構造やビジネスの仕組みが大きく変わる「大変革時代」と言われています。ビッグデータや人工知能やロボットの発展で世界が大きく変わり、20年後には今ある職業の半分以上が無くなっていると言われています。このような急速なグローバル化と技術革新に対して、国際競争に勝ち抜いていけるような産業の創生とそれを生み出すエンジニアの育成が急務となっています。本学は過去20年近くに亘って活発な国際交流を進め、グロー

バルエンジニアを育てる様々な取組を進めてきた実績が評価され、平成26年度には文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業に採択され、また同年と翌平成27年には「大学の世界展開力強化事業（インドおよびメキシコ）」に続けて採択されました。また平成27年度には技学に基づくグローバルイノベーションリーダー養成のための5年一貫制博士課程「技術科学イノベーション専攻」を開設しました。

このように実践的技術者育成システムを海外に展開し、国際的な技学教育研究ネットワークを構築して行きます。また本学がこれまで推進してきた産学連携モデルを海外拠点に展開し、国際的な技学テクノパークネットワークを構築して行きます。このように我々は今後世界経済をけん引しそうな新興国・途上国を戦略的拠点と定め、現地の大学・企業と協働でグローバルエンジニアを育てる取組を進めているところですが、これらの事業のさらなる推進には本学OB・OGの皆様のご支援ご協力が必要です。本学の人材ネットワークを強化し産学連携を進めて、大学の財政基盤を強化するため、現在OB・OGネットワークを強化しようとしています。本学同窓会のご協力も得て、卒業生・修了生名簿を作成し、大学の校友会組織を結成すべく進めているところです。皆様に様々な大学の情報を提供し、大学事業のご支援ご協力を願いたいと思っています。

10年後には開学50周年を迎えます。高専との連携教育をさらに発展させ、未来に向けて、現場力、研究力、創造力、実践力を兼ね備えた「技学力」を持ち、「未踏領域・未踏分野に挑戦し、イノベーションを興すタフなグローバルエンジニア」を育てて行く所存です。卒業生・修了生の皆様のますますのご活躍を期待し、また本学の発展にお力添え頂きますようお願い申し上げます。

「第5回 復活！開学記念マラソン大会」を開催しました

大会報告

電気電子情報工学専攻 准教授 同窓会理事 **芳賀 仁** (エネルギー環境工学専攻 平成16年3月修了)

同窓会では地域交流を主な目的として、平成24年から「復活！開学記念マラソン大会」を企画しています。(過去、本学のクラブ連絡会が実施していた「開学記念マラソン大会」の復活版です。) 平成28年10月1日に第5回大会を行いましたのでご報告申し上げます。

マラソン競技は親子、小学生を対象にした2kmコース、学生、一般向けの5km、10kmコースをそれぞれ大学周辺に用意しています。本イベントはマラソン競技だけでなく、参加者のご家族やご友人にも楽しんでいただけるよう、体育保健センター前にふわふわドームと縁日コーナーを用意して無料で開放しています。新たな取り組みとして、地域のお店、団体様から副賞、参加記念品などご支援をいただくようになりました。内田エネルギー科学振興財団から助成を受けて大会運営に役立てることも行っています。技大に親しみ、そして同窓会を知っていただく行事を目指しています。

大会運営は主に同窓会役員と、学生、教職員のボランティアで行っています。コース上に誘導員と給水ポイントを配置して安全確保を行い、のぼり、立て看板を設置して大会を盛り上げています。年々、地域からの参加が増えています。今回は102名の参加をいただきました。

当日は、お天気にも恵まれて東学長によるスターター号砲のもと、参加者一斉にスタートしました。登り下りのきついコースにも関わらず、沿道の方々の力強い心温まるご声援を受けながら、全員が無事に完走を成し遂げ爽やかなゴールの瞬間を迎えることができました。マラソンを通じて、苦楽を共にした仲間と一緒に、お世話になった母校周辺や懐かしい近隣地域を走り、汗を流して、お互いの健康を喜び合うこともできたと思います。ゴール後は、用意した軽食(おにぎり、トン汁)を食しながら中庭で談笑している爽やかな光景が今回も印象的でした。表彰式では、各コースの上位入賞者に賞状と副賞が渡されました。また、参加者全員に参加賞も配られました。卒業生の皆様もぜひ一度、参加してみませんか。

種目：

2kmコース(親子、小学生対象)
5km,10kmコース(中学生以上対象)

参加申込み：ランナー参加

2km 44名
5km 87名
10km 86名
スタッフ 75名

大会成績：

2km

1位 石橋勇樹 (小学5年) 8' 19"
2位 早川巧真 (小学5年) 8' 20"
3位 野々山隼矢 (小学3年) 9' 01"

5km 男子

1位 小林逸郎 (OBの家族) 17' 11"
2位 古市剛大 (B3) 17' 32"
3位 田中教雄 (OB) 17' 50"

5km 女子

1位 元井 瞳 (地域) 27' 18"
2位 Siti Sahkirah Binti Norsha (B4) 28' 46"
3位 LUU PHVONG THAO (在学生の家族) 29' 36"

10km 男子

1位 西方大地 (地域) 34' 21"
2位 伊藤俊一 (B4) 36' 01"
3位 丸山拓海 (B3) 36' 36"

10km 女子

1位 保里明日香 (B3) 45' 29"
2位 星野香織 (地域) 47' 28"
3位 大桃信子 (職員の家族) 54' 11"



ダイエット目的のジョギングからマラソンへ

原子力システム安全専攻 准教授 **鈴木 常生**

2年前の43歳、身長170cmで、体重95kg、いわゆるメタボ中年で、人間ドックでは要改善の赤文字項目が多数でした。2014年7月に尿管結石になり一念発起、食事制限と毎朝5kmのジョギングによるダイエットを開始。雨、雪、出張、例外なく毎朝です。1年後にはメタボは解消し、ジョギングの目的はダイエットから健康管理・ボディメイクに変わりました。15kmでも平気で走れるようになり、市民マラソンへの出場を考えていたら同窓会のマラソン大会が目にとまりました。

せつかく出るのなら…と、研究室の学生達にも声をかけて5kmにてエントリー。2015年は23' 00"でした。水泳部所属の学生には完敗でしたが、他5名には面目を保ちました。2016年には1分ほど記録を更新。正にジョギングのタマモノ、嬉しかったです。ちなみに大会当日、嫁さんと子供2人は、父ちゃんの応援をする訳ではなく、学内中庭での縁日を楽しんでいました…。

現在、体脂肪率15%、75kg。もちろん健康体ですが、筋肉過多なのでBMI的には「肥満」の判定。人間ドックでのBMI赤字を解消するには、あと3kgの減量が必要なので、約800日継続中のジョギングは必須事項です。その継続はきっと大会のタイムアップに繋がると期待しています。目標は、さらに1分短縮の20分台！



また出たくなる大会って何だろう

情報・経営システム工学専攻 助教 同窓会理事 **鈴木 泉** (情報・制御工学専攻 平成21年12月修了)

同窓会役員でありながら、技大マラソン大会には毎年、ランナーとして参加させて頂いております。役員に任命されたのが2年前ですが、それ以前からマラソン大会には毎回出場しており、自然な成り行きでそのまま出場させて貰っています。ところで、魅力的なマラソン大会、また出てみたいマラソン大会の条件を、重要な順に私なりに2点だけ挙げれば以下ようになります。

1. 周りに多くの走者または観客がいること
2. 普段走れない場所で走れること

1点目についてですが、広い歩道があるのに誰も観客がなくて、車の行き交う車道を「独りぼっち」で走った大会も実際ありました。そのときは、歩道を走ったところ誘導員に、車道を走るように言われてプチ切れてしまいました。2点目の普段走れない場所で走れるとは、例えば車を通行止めにして大通りや幹線道路とか、景色の良い観光道路を走ることです。通行止めといった大げさなことではなくても、「日ごろ自動車でしか走らないような道」を走れば良いのです。

技大マラソン大会の10キロのコースでは、関原から技大までの車道は、普段は歩道しか走らない私から見れば、普段は走れない魅力的な場所です。

最後に、どの大会でも、ランナーが楽しく走れるように支えてくれているスタッフ、ボランティアと、声援してくれる観客と、あと我々のために道を空けてくれたドライバーに感謝します。プチ切れたときの誘導員さん、すいませんでした。



イベント報告

女子学生対象のメイクセミナーを開催しました!

機械創造工学専攻・助教 **田辺 里枝**
同窓会理事補 (エネルギー・環境工学専攻 平成18年3月修了)

技術支援センター・技術職員 **近藤 みずき**
同窓会理事補 (生物機能工学専攻 平成12年3月修了)

今年度も12月7日(水)に、本学の女子学生を参加対象としたメイクセミナーを開催しました。このセミナーは、同窓会の学生支援事業の一環として、長岡技術科学大学就職支援室の共催、株式会社資生堂様のご協力の下、H21年度から始め8回目を迎えました。今回は応募人数に達するのが早く、学部1年生から博士課程の学生まで30名の皆さんにご参加いただきました。

就職活動や新社会人として必要な、基本的なスキンケアや第一印象を良くするメイキャップや身だしなみの方法を90分の実習を通して学びました。参加者からは、「実践式で良かった」、「期待以上だった」、「メイクの基礎を知ることができて良かった」、「下地、ファンデーションの手順、肌への浸透のさせ方が非常に参考になった」などの感想が寄せられ、大変嬉しく思いました。このセミナーは毎年大変好評をいた



だいており、同窓会では、引き続きメイクセミナーなど、学生の皆さんが社会に出ていくためのお手伝いをしていきたいと考えております。機会がありましたら、ぜひご参加ください。

技大祭報告

技大祭実行委員長 **高杉 凌平** (建設工学課程4年)

こんにちは。第36回技大祭実行委員長を務めました高杉凌平です。今年度の技大祭について報告します。今年度の技大祭は9月17日、18日に開催されました。「Present」をテーマとし、技大祭にご来場くださった方々に感謝の気持ちをプレゼントすることを目指しました。また、長岡技大の開学40周年を迎え、技大祭としても記念すべき年となりました。悪天候にもかかわらず3500人近くの方々に足を運んでいただき、今年も大盛況で終わることができました。好評であった今年度の技大祭ですが、その内容をご紹介させていただきたいと思います。まず大学各所で開かれた模擬店、サークルによる演舞・体験コーナーなど、学内の参加者による多数の企画が開催されました。特に、留学生会による「国際祭り」で開かれた、各国の郷土料理を振舞う模擬店や伝統的な演舞などは非常に好評でした。他にもギダイジャーによるヒーローショーなどのステージ企画や、ダイラタンシー現象が体験できるフレンドパークなど、大人だけでなく子どもにも楽し

める企画が多数開催され、多くの家族連れにも楽しんでいただきました。加えて、Microsoft株式会社の西脇氏やLINE株式会社の太田氏による豪華な講演会が開かれました。また、教職員の方々にご協力いただいた「研究室公開」など、技大の特色を活かした学術系の催し物も多数ありました。さらに、川口町の方によるピザの販売や押し花教室、能の披露など、地域の方にもご協力いただきました。今年度の技大祭も多数の方々の協力によって、終わることができました。さて、この技大祭の開催にあたりまして、同窓会からは同窓会費という形でお力添えをいただきました。各種企画の充実などの運営費に充てさせていただき、おかげさまで無事に技大祭を終えることができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。次回、第37回技大祭は2017年9月16日(土)、17日(日)開催の予定となっております。もしお時間の都合が合うようでしたら、ぜひとも足を運んでいただけると幸いです。次年度も楽しんでいただけるようより多くの企画をご用意し、実行委員一同心よりお待ちしております。



大学近況

地球温暖化を止める救世主!? 超軽量な金属材料 “マグネシウム”

先端軽金属材料研究室 中田 大貴 (材料工学専攻 博士2年)

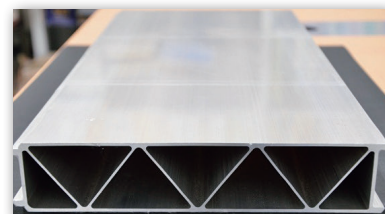
皆さんは、“マグネシウム”と聞いて、どのような印象を持つでしょうか。「食べ物に含まれる栄養素?」とか、「爆発しそうで怖い…」と答える方が多いかもしれません(苦笑)。実は、自動車のボディーパネルやエンジン回りの部品、新幹線の構体として使うこともできる構造用の金属材料です。マグネシウムの最大の特徴は、鉄やアルミニウムと比較して密度が低いことです(鉄:7.8g/cm³、アルミニウム:2.7g/cm³、マグネシウム:1.8g/cm³)。輸送機器部材にマグネシウムを使えば、輸送機器の軽量化、すなわち温室効果ガスの排出量を減らすことができるため、世界中の研究者や産業界がマグネシウムの輸送機器部材としての実用化に注目しています。

先端軽金属材料研究室では、超軽量なマグネシウムの実用化を目指し、マグネシウムに特化した研究を行っています。研究テーマは、自動車のシリンダーブロックやピストン向けの鋳造材、自動車用ボディーパネル・新幹線の構体を意識した展伸材など、様々ですが、どのような研究テーマであっても、基礎研究だけで満足することなく、いつでも出口(応用部材の)イメージを持ち、社会の役に立ちたいと思いながら研究を進めています。その中で、合金組成・加工プロセス-組織-機械的性質の関係を明らかにすることに重点を置き、応用部材に必要な機械的性質を満足する合金組成・加工プロ

セスを探します。この目的のため、国内の大学では珍しく、マグネシウムの溶解・鋳造装置から、展伸加工用のプレス機や圧延機、さらに、組織解析のためのX線回折装置・電子顕微鏡など、一連の評価に必要な装置を所持しています。また、企業とも連携して、実用レベルの大型部材の製造や評価も進めます。添付の写真は、連携企業が、本研究室の開発マグネシウム合金を押し出して試作した、新幹線用のダブルスキン構体です。数年の基礎研究の成果が企業に認められ、実際の応用部材の試作にまで至ることは、研究者として大きな喜びで、研究を進める上での糧となります。

近年の温室効果ガス削減目標を受けて、輸送機器の軽量化は、特に重要な課題になっています。先端軽金属材料研究室の研究内容は、様々な企業から興味を持たれ、さらに、実用化に向けた国のプロジェクトにも選ばれています。あと10年もすると、自動車や新幹線に、先端軽金属材料研究室の開発したマグネシウム合金が使われているかもしれません。

ぜひ、自動車を購入するときや新幹線を利用する際には、どのような材料が使われているかにも注目していただければと思います。



「継続は力なり～良き出会いづくりの重要性～」

環境社会基盤工学専攻 教授 高橋 修 (建設工学専攻 昭和62年3月修了)

私は当時の課程名で建設工学の6期生である。時が経つのは早いもので、修士課程を修了して今年で30年が経過することになる。現在は教員として大学に残っていて、縁あってこの同窓会報に投稿する機会を得た。ここでは私が在学時に所属していたクラブ活動である少林寺拳法部とそのOB会について書かせていただく。

少林寺拳法部は、1期生から創部していただいたクラブで現在も在学生在が活動している。数年前から私がクラブ顧問を担当している。私は入学前の高専時代から少林寺拳法をやっていたので、入学後なんの躊躇もなく少林寺拳法部に入学した。長岡技大の少林寺拳法部は、武道系の流儀に違わず、練習はそれなりにキツく、上下関係はビシツとしていた。大会の前には朝練習を行い、夏休みには合宿も実施していた。練習がキツイぶん、やたらと飲み会が多く、なにかにつけて酒を飲みながら話をする機会をつくった。そして、先輩や同輩、後輩と様々なことについて語り合った。

当時は16:30～18:00あるいは18:00～19:30の時間帯で活動ができて、ウィークデイは毎日練習をしていた。現在は、授業が週休2日になったり、授業時間数が増えたりして、ウィークデイの夕方に全学共通の空き時間を確保することが難しくなっている。今の時間割を見ると、夕方5限まで授業が組まれており、授業が終わるとすでに18:00である。振り返ってみると、我々の時代はクラブ活動に熱中できた。

長岡技大の特徴の一つに、全国の多くの地方から様々な習慣や考え方を持った学生が入学していることが挙げられる。

そしてクラブ活動では、学年と学科の垣根を越えてこのような学生とお互いに知り合えることができる。私は少林寺拳法部を通じて、実に多くの知人、友人をつくることができた。現在でも多くのOBとお付き合いさせてもらっている。実は少林寺拳法部には、OB会が組織されている。2008年に設立し、規約を取り決めて年会費を集め、継続的に活動している。活動の目的は現役学生部員への援助とOB相互の親睦である。現在の内規では、4年に1回のレギュラーOB会を開催し、10年に1回の記念OB会を開催することが決まっている。最近では、昨年9月の技大祭の際にレギュラーOB会を開催した。1期生から22期生までの19名が参加した。

私の座右の銘は「継続は力なり」である。私にとってこの言葉の原点は、学生時代の少林寺拳法部にある。大学でのコミュニティのなかで、クラブ活動はクラスや研究室とは性格を異にする人間形成の場であると考えている。私は少林寺拳法部を通じて様々な経験をし、いろいろな人と出会い、これまでの人生に役立てることができた。とてもEducationalであった。そして今なお、少林寺拳法部OB会を通じて元気をもらっている。体力と気力が続く限り、少林寺拳法部OB会に関わっていきたいと考えている。

平成28年度
少林寺拳法部OB会
(長岡市の割烹にて)



会員寄稿

「技大での生活から現在までをふりかえって」

新潟県立上越総合技術高等学校 電気・情報系
真田 謙一郎 (電気・電子システム工学課程 平成8年3月卒業)

今年度開学40周年を迎えるときに寄稿の依頼をいただき、ありがとうございます。また、技大を卒業し20年経った今、学生生活をふりかえり、近況を交えながら書かせていただきたいと思います。

私は、長岡高専で電子制御工学を学んでおりました。その後、本学の電気・電子システム工学課程で学びました。学業・研究活動とも高専よりレベルが高く、ゼミや研究発表会ではそれぞれの課題についていろいろな側面から時には厳しく、時には温かいまなざしで先生方や諸先輩方に見守っていただいたことが思い出として残っています。在学中には水泳部に所属し、大会で学内や学外の方々と顔見知りとなり、卒業後大会で会ったときに当時のことを思い出して話に花が咲くこともありました。

卒業後は地元の新潟市にある電気製品の工場に就職しました。入社後は技術部で製品評価、製造技術関係の業務を担当しました。入社当初は慣れないはんだ付けや製品の評価、不良品解析など覚えることが多岐にわたりました。いろいろな製品の立ち上げにも参画させていただきました。また、製造の助っ人として現場に入ったりと、いろいろなことが思い出されます。しかし、そのことも在学中に経験したことが糧となり乗り越えられたのだと思います。

入社から時が経つにつれふつと、「教員を志したい」と思うようになりました。「ものづくり」の楽しさ、「やり遂げた」という思いを感じさせてあげたいと思ったのがきっかけです。一念発起して教員採用試験を受験し不合格でしたが、幸運にも県立高校の講師のお話をいただき、当時勤務していた会社を退社しました。それが今の仕事のスタートです。その後、採用試験で内定をいただくことができました。

教員に採用されてから10年以上経ちました。教員になってみると、学生時代とは全く違う面を見ることがたくさんありました。学生時代、教育実習で教壇に立つことはありましたが、たった2週間ほどしかありません。学生時代の講義や会社に行ったときに得た知識を生かして授業をしています。

学校現場では授業以外にも各種の学校行事があります。体育祭や学園祭、球技大会など、クラスの生徒と一緒に考え、作り上げていくことができます。学校の行事の中でも修学旅行は特別な行事の1つです。これまでに4回修学旅行の生徒引率を経験しています。それも全て沖縄。目的は平和学習と文化理解、自然とのふれあいなどです。戦争の痕跡が多く点在する南部で平和学習をします。戦争を経験した方からお聞きする講話では涙を流す生徒もあり、私も平和について考えさせられました。那覇市内の国際通りや首里城では本土とは違う文化に接することができました。マリンスルーの海は日本海とは違い輝いており、大変きれいで熱帯魚も間近に見え、思う存分楽しむことができます。そして、生徒は民泊などの交流でたくさんの思い出とともに成長した姿を見せてくれます。そんな修学旅行に行くことのできる今の高校生は幸せだだと思います。

卒業して約20年をふりかえると、ベースになっているのは技大での学生生活です。私にとってはわずか2年間の技大での生活がいかに貴重な時間であったかを再認識することができました。学業や研究活動、また、部活動、サークルなどで活動することが財産となり、生涯にわたっての宝物になると思います。ぜひ、在学生は技大にいる間にたくさんの経験をしてほしいと思います。最後に、読んでくださった方々のご健勝と技大のますますの発展を祈念いたします。



「学ぶということ」

鹿島建設株式会社 北陸支店 志賀LOT設置JV工事事務所
村川 はるみ (建設工学専攻 平成23年3月修了)

長岡技術科学大学の在学生、同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今回このような執筆の機会をいただき、ふと卒業したのは何年前だったかと考えたときに、すでに大学院卒業から丸6年が経とうとしていることに気が付きました。私が入社した時に大学に入学した学生が卒業するくらいの年月が経っていることに驚き、私はこの同じ6年間の間に何を学んだのだろうか、しばし考えてみました。

私の会社はゼネコン、つまりは現場でモノを作ることを主な業務とした会社です。私も、入社してから6年間のうち、5年間は現場で過ごしてきました。現在は、石川県の原子力発電所にて、安全性向上工事に携わっています。工事現場というと、きつい・きたない・くさいの3Kをよく耳にしますが、これは本当です。ただし、「何もしなければ」です。一緒に働く仲間のことを思い、現場をより良くしよう、作業しやすいようにしようとするれば、工夫の余地はいくらでも出てきます。対象施工物についても同様です。何もせず、考えず動

いても絶対に良いものは出来ません。我々の仕事は作ることですが、自分本位で良いものを作ろうとしても、それが発注者の求めているものとは限りません。今後、使用していく発注者が何を求めているか、どうしたらより使いやすいかを考えなければ本当の意味で良いものは出来ません。

そしてこれらを実現するには、知識を吸収し、考え、答えを出すことが重要です。大学での「学び」と基本は同じと感じております。

もちろん、思い通りにいかないことも多々あります。間違えることもありますし、後悔もありますし、他人に裏切られたと感じることもあります。しかし、社会に出てからは「失敗した、間違った」では終われません。失敗をどうリカバリーし、次に繋げていくかを即座に考え実行する必要があります。これも他を思うが故です。

卒業後、「学校で勉強する学び」からは遠ざかってしまいましたが、「仕事を通じた学び」は必要な知識を自分で取捨選択し、取り入れていかなければならないと痛感しております。

これからも様々な人の意見や考え方を学びつつ、長岡技大の卒業生として恥ずかしく無いよう、進んでいきたいと思っています。

「成長に必要なこと」

三菱自動車工業株式会社
山崎 宏幸(機械創造工学専攻 平成27年3月修了)

在校生・同窓生の皆様、初めまして。

今回は執筆の機会を頂き、大変光栄です。拙い文章ですが、お付き合い頂けると幸いです。

私は、2年前に機械系流体工学研究室を修了し、現在はオートマチックトランスミッションの制御開発をしています。具体的には、トランスミッションの変速プログラムを決定します。考えたプログラムは車両を運転して確認するため、自動車好きとして楽しい日々を過ごしております。

社会人2年目になり、自分が成長するために必要な3つのことに気づきました。

1つ目は、考えることです。修士生時代、「新しいものを生み出すには考えることが必要です。トレーニングと同じで考える力は鍛えられます。日々考えるトレーニングをなさい」とよく先生に教えられました。私は進捗報告や学会で、ほぼ毎回疑問点を考え質問する習慣をつけました。現在もその習慣を継続しています。

2つ目は、仲間と協力することです。学生時代、サークル活動(サイクリングクラブ)に参加し、多くの仲間を得ることができました。大会では、仲間と先導し助けあいながら完走し、絆を深めました。現在も地元の大会に参加し交流を深めています。

社会人になり、困難な仕事に遭遇し己の無力さを実感す

ると同時に、仕事はチームプレーであると実感しました。直接会って話し、互いを理解することを心がけ、多くの協力を得て困難な仕事を進められました。

3つ目は、PDCAサイクルを回すことです。P=Plan、D=Do、C=Check、A=Actionの4段階を繰り返すことで、業務を円滑に進めるものです。会社では時間の制約が多いため、適切な時間管理が必要です。初めは、時間管理がうまく行かず仕事を停滞させることがありました。昼食前などに仕事の進捗状況や内容を振り返り、反省点を次に生かすように軌道修正し仕事を進めています。

現在も新たな発見や困難に日々遭遇します。成長し続けるには、考えること、協力すること、PDCAサイクルを回すことが重要です。さらに成長には「VOS」の精神が必要不可欠であると思います。本学で得た「活力」「独創力」「世の中への奉仕」を基礎に日々精進して参ります。

在校生の皆様、学生生活で多くを経験し社会へ飛躍されますことをお祈りいたします。最後まで読んで下さり大変ありがとうございました。



「新湊ヒルクライムにて」

「私を作った時間」

東亜薬品工業株式会社
下平 潤(生物統合工学専攻 平成23年12月修了)

同窓生、在校生の皆様には、健やかにお過ごしのことと思います。光栄にも寄稿のご依頼をいただきましたので、私の本学在学中を振り返って書かせていただきます。

私は、農業高校から本学へ進学し、学部、修士課程、博士課程、そしてポスドクと実に12年の月日を本学で過ごしました。職業高校から本学へ進学された方の中には、普通科出身の学生との学力の差を痛感された方もおられるのではないのでしょうか。私も、学部1、2年次では学力の差に愕然とし、必死に追いつこうと図書館に籠って勉強しました。当時は苦しかったですが、あれほどじっくり基礎知識を学べる時間は他に無く、今の私の土台を形成できた時間だったように思います。

学部4年から入った環境微生物工学研究室(当時は微生物工学研究室)には、ポスドクを含め8年間もお世話になりました。この8年間の間には様々なことがありました。良い結果が出ず、悩んだ日々を懐かしく思い出します。また、私の妻に出会ったのもこの研究室でした。ベトナム出身の留学生だった妻とは在学中に結婚しました。お互い学生結婚で国際結婚でした。実をいうと、研究室を選ぶ際には、別の研究室に入ろうと考えていました。しかし、希望していた研究室の人气が高くて入ることができず、まだ定員に達していな

かったこの研究室を選んだのでした。今思えば、あの時、別の研究室に入っていたならば妻にも出会えていないことを考えると、良い巡り合わせであったのだと思います。

本学を離れてからは、独立行政法人にてポスドクとして3年半勤務した後、現在の会社で、微生物の大量培養法および微生物の安定性向上のための技術開発を行っています。博士課程を修了しても、必ずしも自分の専門分野で活躍できるとは限りませんが、私は幸運にも私の専門分野で仕事をさせていただいています。過剰な数のポスドクが社会問題化する中で、私がポスドクをしていた時には、私の恩師をはじめ本学の先生方には大変気にかけていただきました。本当にありがとうございました。

こうして大学生活を振り返ってみると、そのすべてが今の私の大部分を形作った時間だったと改めて感じさせられました。本学で学ばれる皆様にも、自己を形成する貴重な時間を過ごされることを願っております。最後に、このような機会をいただきました編集委員の皆様、に厚く御礼申し上げます。



「恩師のちゃんちゃんこを着て」

●平成27年度 会計報告

1. 一般会計収支 <自：平成27年2月26日～至：平成29年2月29日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	6,521,706
雑収入	177,462
前期繰越金	10,787,310
合 計	17,486,478

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	54,324
	広報費	612,208
	助成・貸与	296,768
	活動経費	4,952,797
	小計	5,916,097
事務費	会議費	21,800
	雑費	43,320
	小計	65,120
新規積立		0
次期繰り越し		11,505,261
合 計		17,486,478

2. 積立金会計収支 <自：平成27年2月26日～至：平成28年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額	52,061,498
新規積立	0
合 計	52,061,498

■支出

科目	金額 (円)
積立(国債)	40,000,000
次期繰越額(定期)	12,061,498
合 計	52,061,498

平成28年2月29日

会計担当 坂田 健太

平成28年2月29日

会計監事 熊倉 清一
床井 良徳

●平成28年度 会計報告

1. 一般会計収支 <自：平成28年3月1日～至：平成29年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	5,878,926
雑収入	101,416
(公財)内田エネルギー科学振興財団 助成金	200,000
前期繰越金	11,505,261
合 計	17,685,603

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	56,360
	広報費	130,229
	助成・貸与	1,201,296
	活動経費	3,487,022
	小計	4,874,937
事務費	会議費	24,548
	雑費	8,184
	小計	32,732
新規積立		0
次期繰り越し		12,777,934
合 計		17,685,603

2. 積立金会計収支 <自：平成28年3月1日～至：平成29年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額(国債還付金)	40,000,000
前期繰越額(定期)	12,061,498
新規積立	0
合 計	52,061,498

■支出

科目	金額 (円)
積立(国債)	0
雑収入へ入金	4,405
次期繰越額(定期)	52,057,093
合 計	52,061,498

平成29年3月11日

会計担当 坂田 健太

平成29年3月11日

会計監事 熊倉 清一
床井 良徳

●平成29年度 会計計画(案)

1. 一般会計収支 <自：平成29年3月1日～至：平成30年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
入会金	6,000,000
積立金の取り崩し	0
雑収入	100,000
前期繰越金	12,777,934
合 計	18,877,934

■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	100,000
	広報費	650,000
	助成・貸与	1,200,000
	活動経費	5,800,000
	小計	7,750,000
事務費	会議費	50,000
	雑費	50,000
	小計	100,000
新規積立(積立会計へ)		0
予備費		500,000
次期繰り越し		10,527,934
合 計		18,877,934

2. 積立金会計収支 <自：平成29年3月1日～至：平成30年2月28日>

■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額(定期)	52,057,093
新規積立	0
合 計	52,057,093

■支出

科目	金額 (円)
積立取り崩し	0
次期繰越額(定期)	52,057,093
合 計	52,057,093

平成29年3月11日

会計担当 坂田 健太

編集後記

長岡技大は、平成28年度で開学40周年を迎えました。東学長の元、大学の発展に向けて様々な変化があります。1つの柱である産学連携を進める上で、同窓会との連携協力が必須であるとの話を伺っています。同窓会としても、卒業生と大学のパイプ役として協力していきたいと思っています。引き続き、会員の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

同窓会連絡先

長岡技術科学大学同窓会

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

電話/FAX 0258-46-5505 e-mail dosokai@vos.nagaokaut.ac.jp

同窓会 HP : <http://nagaokaut.alumnet.jp/>Facebook ページ : <http://www.facebook.com/NutAlumni>

住所・勤務先等に変更がございましたら、同窓会HPにてログインしていただき、登録情報の変更をお願いいたします。

長岡技術科学大学同窓会報 平成29年3月25日発行

この同窓会報は環境にやさしいFSC™森林認証紙を使用しています。



(13000)